

2009年6月20日(土)開催 | 基盤教育研究分科会

## 認知心理学から学習を考える

テーマ	認知心理学から学習を考える
開催日時	2009年6月20日(土) / 14:00~17:00
会場	明治大学 紫紺館
参加者	27名
講師	駿河台大学 現代文化学部 准教授 / 青山征彦氏
ナビゲーター	堤 宇一 人材育成マネジメント研究会

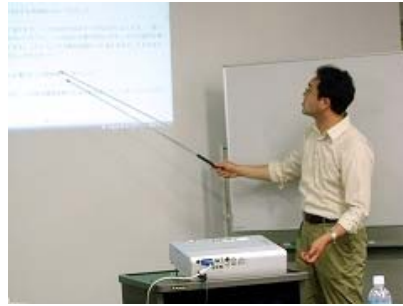


### ■実施報告(HRDM 会員、サポーター:水元孝枝)

●今回のわ談会は駿河台大学の青山征彦さんを講師に迎え、『認知心理学から学習を考える』をテーマに開催されました。

真夏のような強い日差しの中、日頃大変お忙しい青山さんが、大汗をかきながらジャストタイムで会場に駆けつけて下さり、一同胸をなでおろしてのスタートとなりました。

●「学習」「学び」とは、いったいどういうものなのでしょう？



頭の中で、何が起きているのでしょうか。  
人材育成に関わる私達の最大の関心事について、  
まずは  
「そもそも認知心理学とは？」からお話を伺いました。

認知心理学と一口に言っても、いろいろな研究領域があるとのこと。

「環境分析なのか？それとも個人の内部の分析なのか？」  
「知覚や認知に注目するのか？それとも  
言語や社会的な関係に注目するのか？」  
によってマッピングした図が披露されました。  
(※青山さんの主観によるマッピング)

「この住み分けは、豆腐売り場に、豆腐として売っているものもあれば  
こんにゃくや湯葉も売っている、それぐらい違うんです」

という例えのおかげで、  
「情報処理アプローチ」「脳機能研究」「認知工学」  
「状況論」「アフォーダンス」などという  
ちょっと難しく聞こえる専門用語について、  
感覚的ではありますが、  
自分なりにイメージすることができました。



● 認知心理学の歴史は、



一般的には1956年の「認知革命」から始まるそうですが、  
昨今さらなる研究が進み、  
従来の心理学では説明しきれないことも  
出てくるようになりました。 「どうやって頭の中に知識を詰め込むか？」だけで  
はなく 「頭の中で起きていることと、外との関係は？」 を研究する必要があるこ  
とは、

人材育成に関わるだれもが、現場で感じていることなのでしょう。

ネズミを使った実験で、  
「途中で報酬を与えると、ねずみのパフォーマンスが良くなる」  
という結果があるそうですが  
「じゃあ、途中で報酬を与えるのをやめたらどうなるの？」  
という実験はまだ行われていないとのこと。

是非実験結果をお聞きしたいですね！

●これからは



ヨコの学習(問題の解き方を覚える)→インストラクショナルデザイン  
タテの学習(自分は何を学ぶべきなのかを考える)→キャリアデザイン

の2方向の学びが必要であると言われ、  
HRDMでの学習ネタがさらに増えて、ますます楽しみです。

(堤さんの、「私が今まで10年間研究してきたことだけじゃ、十分じゃないってことです  
ねえ～」という、ため息交じりのつぶやきに皆さんから思わず笑い声が・・・)

● わ談会を終えて

いろいろな切り口と、ユニークな比喻を交えたテンポの良い楽しい講義は、笑いが  
いっぱいであつというまの3時間でした。

そして、いつものように、懇親会で議論は深まり、仲間との対話の中で新たな気づき  
が生まれ、つながりが育まれました。

青山さん、どうもありがとうございました！

(報告:HRDM 会員 水元孝枝)

開催日 2009年6月20日(土)